

# 三小だより

# 1月号

## 努力の人になろう

校長 藤本 賀津雄

新年明けましておめでとうございます。今年一年が、皆様にとって素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。また、本校の教育活動に対しまして、今年も温かいご理解とご協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。

さて、年頭に当たり一人の偉人についてお話しします。皆さんはトーマス=エジソンという人の名前を聞いたことがあると思います。発明王といわれたエジソンは、蓄音器や白熱電球、活動写真など実に1300もの発明をしました。少年時代のエジソンは好奇心の旺盛な子どもでした。自分も孵化させようと、ガチョウの卵を抱き抱えてガチョウ小屋の中に何時間も座り込んだり、「なぜ物は燃えるのか」を知りたくてわらを燃やしていたところ、自宅の納屋を全焼させる事件を起こしたりしました。また、算数の授業で「 $1+1=2$ 」と教えられても、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの？」と質問するなど、「なぜ」を連発して先生を困らせたそうです。学校教育に馴染めなかったエジソンは、小学校に入学してからわずか3カ月で退学し、その後は自宅で独学したそうです。小学校中退のエジソンが、世界的な発明王として名を残した理由は何かでしょうか。それは、彼が何事もあきらめずに挑戦する「努力の人」だったからです。彼は「天才は1%のひらめきと99%の努力」という有名な言葉を残しています。

このエジソンに比べたら、三小の子どもたちの方が高学歴ということになりますね。つまり、人は努力次第ではどうにでもなれる可能性を秘めているということです。私は冬休み前の朝礼で、子どもたちに新しい年を迎えたら「新年の目標」を決めて、何か新しいことに挑戦してほしいと話しました。まっさらのノートに初めて字を書くとき、きれいな字で書こうとした経験は誰にでもあるでしょう。途中から文字が汚くなることも多いと思いますが、たとえ1ページでも2ページでも、きれいな字で書こうとしたこと自体が素晴らしいことです。同じように、新しい年を迎えたら新しい気持ちで頑張ろうとすること自体が素晴らしいことなのです。途中で挫折したとしても、初めから何もしようとしな人よりはずっと素晴らしいと思います。

新年にあたり、家族みんながそれぞれ「新年の目標」を決めて頑張ることも素敵だなと思います。大人も子どもも、新しいことに挑戦しあう中で、家族の人も頑張っているからぼくも頑張ろうというように、「努力する空気」が家の中で広がります。それを互いに讃えあえる家族っていいなと思います。

